

令和5年 新年ご挨拶 代表取締役社長 戸沼 淳



本年は、相談役戸沼平八の訃報からスタートすることになりました。1968年に入社から55年にわたって会社の基盤づくり、発展に尽力していただきました。なかなか先が見えない中ですが、先代の座右の名であった「激動をよき友に」の言葉を胸に、混乱の続く世の中を乗り切っていきたいと思えます。

昨年、世界的なコロナ感染の拡大に加え、ロシアのウクライナ侵攻により、サプライチェーンの混乱（部品の生産や流通がネックになって販売、消費まで完結しないことを指しています）又、物価の高騰は、企業の活動だけでなく皆さんの生活にも大きな影響を及ぼしています。

一方、気候変動による自然災害の頻発化、激甚化は収まりを見せておらず、身近なところで昨年8月の奥尻、函館の大雨による災害や、年末年始の大雪と、防災、インフラの整備の必要性はますます高まっているところです。

相談役がかねてから言っていた「造ったものに責任を持つ」という言葉は、魚道だけでなく治山工事にも当てはまります。「このまま造って10年後大丈夫なのか？」といった疑問を持てる創造力を持った技術者を目指してもらい、林業土木や森林土木の協会、NF工法研究会などと深い関係がありますので、いろいろな提言、助言もできる会社を目指したいと思えます。

また、DXや働き方改革と工事や仕事の環境、手段について盛んに取りあげられておりますが、本来の目的『地域社会を守っていく』ことについては、変わっておりません。あくまで目的を見据えたうえでの改革に取り組んでいきたいと思っております。

当社の今年度は、ネットヨタ函館七重浜店の新築工事をはじめ、民間建築工事やJRTTの大型受注もあり、年度初めの完工高の目標は達成見込みです。しかし、NFを始めほとんどの工事が、完成、検査待ちの状態です。本年の工事の受注に向けて精力的に取り組んでいますが、慣れない工事、条件の厳しい工事が多くなりますので、しっかり計画を吟味して、手戻り、事故のない工事を総力戦で取り組んでください。

また、知床の観光船の事故や熱海の土石流の災害のように、甘い認識やルール違反を見逃していたことが





安全と衛生

戸沼岩崎建設株式会社 発行
令和 5年 2月 15日
向春号 <http://www.tonuma.com/>
第 256 号



事故や災害となって具現化した事案は、のちに厳しい法改正になって戻ってきます。しっかりルールを守ること、守らせることは、自分や相手、会社を守ることになります。法令のできた背景やリスクをよく考えたうえで行動をしてください。

今年の干支は、『癸卯（みずのと・う）』です。「癸」には「春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味をもっていて、「卯」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があると言われております。この2つの組み合わせである癸卯には、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表しているといわれます。

努力をしないとつぼみもできません。まずは皆さんが何か目標を見つけて努力すること、そして皆さんの努力が実を結びますことを祈念いたしまして、年頭の挨拶にしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

（令和5年1月6日朝礼 社長挨拶から）

道南の労働災害発生状況

函館労働基準監督署管内（渡島・檜山地区）における令和4年1年間の労働災害発生状況（速報値）が発表されました。

全産業の労働災害は1183名で前年同比 598名増加しました。死亡労働災害は6名増加し、土木工事業4名、建築工事業1名、水産業2名、清掃業1名の8名が亡くなりました。事故の型では、コロナウイルス感染症に係る「その他」が688名、「転倒」が164名、「動作の反動無理な動作」が72名、「墜落・転落」が64名、「はさまれ・巻き込まれ」が60名等となっています。また、業務中の交通事故による労働災害は、前年同比9名多い24名でした。建設業では、作業中の動作の反動無理な動作による労働災害などが減少したものの、墜落・転落災害の発生数が令和3年と同数で死亡災害が大幅に増加しました。

12月1日～3月31日は「北海道冬季ゼロ災運動」の期間です。凍結等による転倒、自動車のスリップや吹雪等による視界不良時の交通事故、除雪作業に伴う墜落災害、屋内での内燃機関等の使用による一酸化中毒等の冬季特有の労働災害防止にも取り組みましょう。



人間尊重の安全思想を

北海道南西沖地震（1993年7月12日）の災害復旧工事が本格化し始めた時期に函館建設業協会の労務委員長だった故戸沼相談役。当時、業界紙に掲載されたインタビュー記事を抜粋して紹介します。



◎労災防止の問題点…。

安全を確保するためには、業界内部の要件として、労働者の教育を含めた計画的な活動やそれに伴った安全上の設備、装備をそろえるなど、まず企業側ができることがある。設備に十分な投資を行い、安全衛生に配慮するという事は「お金で安全を買える」部分であり、経営者ができる内的な要件である。できるかどうかは、各企業の安全に対する意欲の問題だと思う。（後略）

◎重機災害について…。

〈前略〉昔はスコップやノコで仕事をしていたものがバックホーやチェーンソーといったものに代わり、少々のケガで済んでいたものが重大な災害につながるようになった。安全を考えた時、一番大切なのは根本的に人間は安全に対する機能を高度に身に付けた存在であることを認識した上で、その能力を超えて発達した機械、設備との矛盾をどう埋めるかということではないだろうか。

◎現場代理人へのメッセージ…。

現場の一人ひとりの人格を尊重してほしい。飾りでKYをやるのでいけない。人間は毎日調子が良い訳ではないし、できれば現場での適材適所にまで気をつけてほしい。大変な立場だと思うが、自分の思想として人間を尊重しているかどうかで安全に対する態度がガラリと変わるだろう。

令和4年度後期 ISO内部監査

当社はISO9001（品質）、ISO14001（環境）、ISO45001（労働安全衛生）の要求事項に従って必要なプロセス及び相互作用を含む統合マネジメントシステムを職員が監査員を務め内部監査を実施しています。職員同士が互いの施工活動を監査することでISO規格への理解を深めると共に自らの施工活動に役立っています。



函館南茅部線災害復旧工事（函館市）



静狩漁港機能強化工事（没藻外）
（補正明許） 〈長万部町〉